

1 令和元年、磐田市の諸課題

(1) 防災対策の強化

① 豪雨対策

ア ハザードマップで各河川別の浸水想定区域をみると、避難所等が浸水想定区域に入っていることが確認できる。避難所等全体の見直しについての見解と、河川氾濫した場合の避難所としての対応を伺う。また避難所における要配慮者への対応について課題と対策を伺う。

イ 要配慮者への対応については、自治会長等が電話連絡をしたり、自治会の公会堂を避難所として開けたりと、共助の意識で大きく違ったと聞いている。こういった事例についての見解と、事例の情報共有について見解を伺う。

② 要配慮者が、地震等で家屋に住めなくなった場合の、福祉避難所の考え方と課題を伺う。

(2) 一般廃棄物最終処分場の考え方

① 10月21日の中遠広域事務組合議会において、処分場建設なしであり得るか非常に不明確、最終的にごみの問題は重要なので、町民や市民に説明できるような方向を示してもらいたいといった意見もでたが、そのことに対する見解を伺う。

② 最終的にリサイクルできない、埋め立てせざるを得ない廃棄物の量は、どの程度になるかの見込みと、それらの改めての調査の考えを伺う。

(3) 磐田市民文化会館と今之浦市有地

① 磐田市民文化会館跡地は、市の中心市街地であり、本市の価値を高めるための絶好の場所である。パブリックコメントを平成30年度に実施して以降の、基本方針についての考え方と、今後の進め方を伺う。

② 今之浦市有地、今之浦公園については、すでに基本方針が示されているが、河川も跨ぐため、県とのミズベリング等の観点による利活用

や、中心市街地であるため公民連携による利活用も十分に考えられる。県や民間との連携について、都市公園法が平成29年に改正されたことによる効果を踏まえ、どのように捉えているか見解を伺う。

(4) 子育て支援センターの在り方

- ① 4カ所の子育て支援センターが令和元年度末で閉鎖されることが9月末に発表となり、現在活用している0～2歳の子どもを持つ親、そしてすでにセンターから離れているものの、以前活用していたという世代からも、大きな関心が寄せられている。このことに対する見解と、0～2歳の自宅で子育てしている母親たちの孤立を防ぎ、困難を抱えることなく子育てをするための施策と課題として捉えていることを伺う。

(5) 行政経営マネジメント

- ① 副市長の体制については2人体制の市が多く、十分検討の余地があると考えられるが、本市における副市長の役割と、現在の1人体制の考え方を伺う。
- ② 本年度、総務部長および企画部長が勤務延長となり半年が過ぎた。当該人事における概要や職員の退職年齢の今後の方針を伺う。
- ③ 職員ひとりひとりの成長、スキルアップこそ磐田市の財産である。職員たちには市外に出て他市の自治体職員や民間企業で働く方々と意見交換したり、スキルをあげるための資格取得をしたりしてもらいたい。旅費や資格取得へのサポートに対する考え方を伺う。
- ④ 専門性が求められる業務が増えており、一つの分野を継続的に勤め上げる職員も必要ではないかと考えるが、見解を伺う。また民間との人事交流についても併せて見解を伺う。
- ⑤ 本市は、磐田市公共施設等総合管理計画を作成し、特に本年度からは資産経営準備室を設置し、取り組んでいると認識をしている。平成27年度末に策定した管理計画以降も、公共施設の更新、新設は進んでいるが、この間の計画の検証や見直し状況を伺う。

2 令和元年から未来へ

(1) 未来ある子どもたち

① 幼児教育と子育て支援

- ア 本年度から本市も産後ケアの実施を始めたが、この事業の半年間の進捗や出てきた課題を伺う。また助産師と保健師の産後ケアにおける連携の今後の展望を伺う。
- イ 県が育成している家庭教育支援員や人づくり推進員と学校や幼稚園・保育園等が連携することによって、保護者に対する相談や指導を補完できると考えるが、ネットワークづくりや人材活用のこれからの考えを伺う。
- ウ 子どもたちにとって、身体を成長させるうえで食は欠かせず、ゆえに乳幼児期の子どもを育てる保護者の食育への関心は高い。また食育への関心が低い保護者に対しての啓発は、コンビニ食やファミレス食が手軽に取れる環境であるため、これまで以上に重要であると考え、本市における乳幼児期の食育推進へのこれからの考え方を伺う。
- エ 幼保民営化を現在進めている中で、保育士確保は民間のみなさんとともに最善策を検討していただきたいが、保育士有効求人倍率と、保育士確保のためのこれからの取り組みを伺う。

② 教育

- ア 県からの提案もあって3年間、スポーツ部活を通じて、学校で望む競技がない場合でも、市全体で部活動として取り組むことができたと評価しているが、今後の展望を伺う。また文化部を含め、部活動の今後の在り方を伺う。
- イ 外国人児童については、初期支援教室N I J Iでの支援、通訳や支援員の配置など、手厚く支援をしていると評価をしている。一方、外国人児童の数の増加や年度途中での増減に伴い、学校現場の対応の難しさも耳にするが、実情と課題を伺う。また民間企業に対し、応分負担の観点からの通訳のサポートなどに対する見解と、学校に編入する前に日本語や生活の基礎を学べるプレスクール開設についての見解を伺う。
- ウ 学府一体校は、「学校づくりは地域づくり」の一環として捉えてい

るが、学府エリアと、地域づくり協議会を中心にした地域づくりのエリアは必ずしも一体ではない。ながふじ学府においては、地域支援室が設計図の中にも記されているが、学校づくりと地域づくりをどのように連動させていくのかこれからの取り組みを伺う。また今後、交流センターや、幼稚園、保育園との一体整備をどのように考えていくか、これからの考え方を伺う。

③ 困難を有する子どもたち

ア 子どもの貧困や虐待など、困難を有する子どもたちを取り巻く環境は、一概に親にのみ責任を求めるものではなく、社会環境によるものだということがわかってきている。本市においては、こども・若者相談センターができ、大きな一歩だと評価しているが、見えてきた課題と、県や民間福祉施設との連携について見解を伺う。また対症療法のみではなく、予防するための環境づくりの今後の取り組みを伺う。

イ 不登校については、磐田市教育支援センターあすなろでこれまで学校に通えない子どもたちの居場所を担ってきたことは評価をしている。一方、10月には「不登校児童生徒への支援の在り方について」新たな通知がされ、「学校復帰に捉われない」新しい不登校対応が明確になったが、そのように本市でも様々な選択肢がほしいと願っている。これからの考え方を伺う。

(2) 魅力あるまちと産業

① 産業振興

ア 下野部工業団地の現況と、本市における工業団地立地の今後の展望を伺う。

イ ひきこもり復帰支援の体験就労や、児童養護施設の出身者のサポート、障がい者雇用の促進など、困難な環境にあっても働く意欲のある方々を育てることを、企業にもご理解いただきたいが見解と周知方法について、これからの取り組みを伺う。

② 中心市街地の活性化

ア 中心市街地の先進地を学ぶ中で、何をもって「活性化」だと捉え

るかという定義をすることが大切だと感じたが、本市のこれからの展望を伺う。

イ 現在の商店会連盟は、自らの商売をやりながら、組織を運営してくださっている。商店街が活性化するための運営組織や人材の育成について今後の取り組みを伺う。

③ 新駅によるまちづくり

ア 御厨駅の開業が間近に迫っているが、開業時の新貝、鎌田第一土地区画整理事業の進捗率、区画整理地内の市有地の方向性を伺う。

イ 御厨駅開業までに投じた事業費の総額と財源の内訳、費用対効果についての考えを伺う。

ウ 御厨駅開業後の周辺まちづくりのこれからの展望を伺う。

(3) 豊かに生きられるシニアライフ

① 健康寿命を延ばすために、運動・活動・参加のバランスが大切であるといわれているが、サークル活動など地域づくり協議会での取り組みや、シニアクラブの活性化のこれからの展望を伺う。また、年代毎に対応できる仕組みづくりやサポートについて考えを伺う。

② 本市においては、公共交通のバスの代替として、早々にデマンド型乗合タクシーの仕組みを作り、交通弱者の支援をしてきたことは評価できる。本市としての公共交通の今後の展望と、デマンド型乗合タクシーの需要量と費用、利用者の費用負担についての検証状況を伺う。

(4) 誰もが安心できる暮らしの確保

① 令和7年、2025問題まで間近に迫る中、介護保険料は10年の見通しで立てられると思うが、サービスの需要と供給バランスと、介護保険料の負担に対する本市の考えを伺う。

② 令和7年、本市の認知症高齢者は5,800人と見込まれている中、成年後見制度の仕組みづくりは喫緊の課題であり、市長申し立ても今後増えてくることが予測されている。本市における市長申し立てのこれまでの件数や市長申し立てのプロセス、今後の取り組みを伺う。

③ 権利擁護支援や成年後見制度利用促進に関しては、障害や経済的虐待など課題が重複しているケースも多く、複雑になっている。そこで

様々なケースに対応できる弁護士等の法的な見解の支援の手が入る、中核機関設置が必要ではないかと考えるが、見解を伺う。

- ④ 障害者総合支援法に基づき、多様化する障がい支援区分に応じてサービスも利用できるが非常に複雑であり、理解しづらいといわれている。相談体制や周知について、現状と課題を伺う。また、地域生活支援拠点等整備に対する考え方を伺う。
- ⑤ 民生委員児童委員がこの12月で改選を迎える。選出にあたりどのような課題があったのか伺う。また次の3年間でやりがいを持ち、気持ちよく任務を遂行していただくためのこれからの取り組みを伺う。
- ⑥ 磐田市立総合病院の経営においては、キャッシュフローを重視した堅実な経営をしていると認識しているが、雑誌などで欠損金149億の金額だけを取り上げ、自治体病院がなくなるかのような特集が組まれることがある。見解とこれからの取り組みを伺う。

(5) 市民活動の盛り上がり

- ① 市民活動の中に、自治会の活動も含まれていると、協働のまちづくり推進条例には定義しているが、市民活動団体、地縁団体を自治基本条例にはどのように位置づけていくのか、市民活動団体と地縁団体、それぞれの活動が活性化するためのこれからの考え方を伺う。

② 地域づくりと自治会

ア 市の考える「地域づくり」とはどうあるべきか、現在の自治会と地域づくり協議会の関係性についての課題と、これから目指していく方向性を伺う。

イ 地域づくり協議会の事務局を務める交流センター長のスキルやビジョンによって、地域づくりに大きな影響があるのではと推察する中で、市のOB、現職、民間出身の方など、様々なセンター長がいるが、配置の基準やセンター職員の体制についてこれからの考え方を伺う。またセンター職員同士の横の繋がりや、スキルアップについて、これからの取り組みを伺う。

③ 多文化共生と国際交流

ア 本市においては、外国人の人数が多く、多文化共生の先進地域と

して、評価できることも多くある一方、課題も先進的に見つかっていると推察するが、自治会活動、防災、教育、社会保障それぞれの観点から見た課題と今後の取り組みを伺う。

イ 多文化共生においては、磐田国際交流協会が一翼を担ってくれているが、本市との連携の評価と課題を伺う。また本市の組織の中に、多文化共生を横断的かつ積極的に取り組む部署が必要ではと考えるが、見解を伺う。

ウ 姉妹都市交流においては、磐田国際姉妹都市協会が特にマウンテンビュー市との連携を深めているが、今後の方針を伺う。またマウンテンビュー市へ、2年に一度訪問する磐田の子どもたちへの支援のこれからの考え方を伺う。

(6) スポーツのまちづくり

① ジュビロ磐田を核とするまち

ア ジュビロ磐田は、磐田市にとって誇りであり、多くの市民が「ジュビロ磐田の磐田市です」と一度は口にするほど、本市の名を全国に知らしめてくれた。Jリーグのチームは現在50以上あり、県名、県庁所在地や政令市の大都市名がついたチームが8割という中で、本市は地方都市ながら全国のJリーグホームタウンに対し、様々なアプローチができるとも考えるが、他のホームタウンとのつながりづくりの今後の取り組みを伺う。

イ 小学生の一斉観戦は、磐田市の子どもたちが全員ジュビロ磐田を体感できる、大変いい事業だと評価をしているし、またジュビロ磐田もそれに応え、選手会で小学校に年2回派遣してくれており、子どもたちにとっての財産を作ってくれている。こうした子どもたちへの活動に対しての成果や評価、今後の取り組みを伺う。

ウ 本市において、ジュビロ磐田を支援するためには、ホームタウン推進協議会が市民側としてその一翼を担ってきたが、関わりや支援についての今後の展望を伺う。

エ ジュビロ磐田がもう一段階、地域に浸透し、本市がホームタウンとしての醸成を図るには、さらなる手段が必要ではないかと感じて

いるが、本市は、ジュビロ磐田とともにどのようなまちづくりを進めていくか今後の展望を伺う。

② スポーツで本市を発信する

ア ラグビーワールドカップ2019日本大会が大いに盛り上がったことは記憶に新しい。開催前からレガシーを作っていこうという中で、エコパを拠点にアザレア・スポーツクラブもでき、また本市ではヤマハ発動機ジュビロの盛り上がりも期待されている。ラグビーを通じてのスポーツ振興策について今後の展望を伺う。

イ 多様なスポーツで頑張ってくれる選手や、合宿や試合で市内を使ってくれるチーム等もあり、本市の魅力を内外に発信してくれているが、スポーツのまちづくり磐田としての今後の展望を伺う。

③ スポーツと健康づくり

ア 幼児期においては、幼児期運動指針が示され、体力や心、そして社会適応力の育成にも運動の効果があると言われているが、保護者の意識や運動習慣に大きな影響があるとされている。幼児期運動指針に示されるように、幼児期の保護者への運動に対する意識づけについて、今後の取り組みを伺う。

イ 少年期のスポーツは、学校教育とは別の社会教育として、スポーツ少年団がこれまでは中心であったが、少年期のスポーツ活動を広げるための今後の取り組みを伺う。

ウ シニア世代や働く世代の運動習慣を高めるためには、スポーツをすることへの入り口を広げ、また敷居を低くすることが一つの手段であるが、初心者教室の充実や往年の名選手による講演や指導の拡大について、今後の取り組みを伺う。

エ 障がい者スポーツの普及は、来年のパラリンピックによりさらなる理解が進み、本市でも活発になることが予測されるが、施設の対応や各種大会への参加要件の緩和の啓発など、これからの取り組みを伺う。

(7) 魅力を未来へ残すために

① 財政全般

- ア 財政指標については数値が年々改善しており、安心感を高めているが、中期財政見直しを通じ、現段階で進めている予算策定における令和2年度の財政指標の見込みを伺う。
- イ 本市における資産の状況、負債の状況について、市民一人当たりの資産額、市民一人当たりの負債額、有形固定資産減価償却率と、それぞれの他市との比較を伺う。
- ウ 扶助費の増加ということが、全国どの自治体でも話題になっているが、本市の世代別に分けた分析についての見解を伺う。
- エ 財務書類において貸借対照表や行政コスト計算書等4種類を作成することとなり、財務分析においてストック情報や発生コスト情報の評価等も分析しやすくなったと捉えているが、類似団体との財務比較における評価について見解を伺う。

② 文化芸術政策

- ア (仮称)磐田市文化会館が建設中である。第二次磐田市文化芸術振興計画は平成29年度に作成されたばかりであるものの、本市の文化政策の最大のシンボルが変わり、大きな見直しをしなければならぬと考えるが、計画見直しの見解とこれからの文化芸術振興におけるビジョンを伺う。
- イ 現状、磐田市民文化会館は直営、その他の文化施設は指定管理者で管理している中、(仮称)磐田市文化会館の経営管理はどのように考えているか。新しい会館を契機に本市の文化芸術を包括的に経営管理できる組織の創設について見解を伺う。
- ウ (仮称)磐田市文化会館のこけら落としには、磐田市のどんな文化的魅力を新しい会館から世界へ発信していくか、その取り組みを伺う。

③ 県立農林環境専門職大学の開校

- ア 静岡県立農林大学から、農林業分野の専門職大学として静岡県立農林環境専門職大学、農林環境専門職大学短期大学部へと生まれ変わる。本市が期待するもの、産業界との連携や学生卒業後の進路について考えを伺う。

イ 県立農林環境専門職大学は、かぶと塚公園と隣接しており、中心市街地計画の中には含まれないものの、大規模な面積を有する市内の中心的な位置に存在する施設である。今後、県に対し、かぶと塚公園との一体的な活用方法を提案し、エリアとしての価値を高めていくことも必要だと考えるが、本市の考えを伺う。

④ 自然と環境

ア 本市の緑化の保全や推進は、平成20年に策定された「緑の基本計画」により進めてきたが、計画から10年以上が経過し、その評価や見直しに対する考えを伺う。

イ 景観形成の観点から、今後、開発する宅地造成では壁面等を後退させ植栽や修景のための空間を確保し、街並みを美しくすることにより、街の価値を高めることを提案したいが、今後の取り組みを伺う。

ウ 子どもたちの遊び場として、自然や緑のあふれる公園の持つ役割は大きいが、公園の樹木や緑地の管理と遊び場としての機能づくり、それぞれについての今後の展望を伺う。また、子育てや教育部門との連携と体制づくりの取り組みを伺う。

エ 都市公園から開発行為によって設置された公園まで、大小さまざまな公園が本市にはあるが、更新や廃止も含めた今後の計画や方向性を伺う。

オ 本市の道路と街路樹は、どのようなコンセプトをもって計画と管理をしているかの考え方と今後の展望を伺う。

カ SDGsの推進について、その取り組みは多岐にわたるが、本市が行える啓発や活動を推進する部署の設置が必要ではと考えるが、見解を伺う。

(8) 令和2年度、合併15周年へ向けて

① 合併15周年を迎えるにあたり、新市まちづくり計画の進捗状況と

1 5 年を振り返っての総括を伺う。

② 現段階で検討している事業や企画を伺う。